

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立本通中学校

学級数 21 (特別支援2)

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

目標を抱き ねばり強く努力する生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

重点教育目標の達成に向けて、『重点学校課題と具現化の方策』が校長から示され、とりわけ学習指導においては「基礎学力の定着を図る」ことを重点課題とした。具現化の方策等として、以下の4点とした。

- ① 基礎学力の定着を図るために
 - ・授業時数の確保
 - ・授業の工夫～TT等
 - ・家庭学習の習慣化～学習サイクルの確立
 - ・校内研究・研修の充実
- ② 指導と評価の一体化
- ③ キャリア教育の推進
- ④ 各種テストでの事前・事後の指導

2 取組の方法、位置付け

- ◆ 授業時数の確保；教務部により、教育課程の充実に努めている。各教科において、基準教育課程について随時朱書きを加えている。
- ◆ 授業の工夫；教務部・各教科担任
全学年の数学科において、週1時間TTを実施し、基礎学力の定着に努めている。時間割編成上、難しい面もあるが、TTの時間の確保に努めている。各教科において、わかる授業を目指し、授業改善に取り組んでいる。基礎的な内容の反復（小テスト等）や計画的に宿題に取り組ませる工夫に努めている。
- ◆ 家庭学習の習慣化；教務部（研究係）
研究主題『生徒が自己実現を感じることができる「確かな学び」を目指して』に迫るための一つの方策として、家庭学習の定着の工夫に取り組むこととした。各種テストでの家庭学習の取組を家庭と連携した。テスト計画表を研究係から提示し、テスト前2週間の家庭学習の様子を保護者からコメントをもらい、学級担任からも励ましを与えた。
その結果、学級担任からは「組織的な」取組で、生徒も少しずつ意欲的に家庭学習に取り組むことができたという成果を得ている。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・基礎学力の定着に向けて、教育課程の充実に努めてきた。
 - (成果) → 授業時数に係わっては、会議日の削減等で当初予定時数に対して7h増(12月末)を確保できた。
 - (成果) → 各教科において、基準教育課程に随時朱書きを加えることで、指導時期や配当時数の見直し等ができ、25年度教育課程編成の準備が進んだ。
 - (成果) → 数学科において、全学年TTを週1時間実施してきたことで基礎学力の向上につなげることができた。
- ・基礎学力の定着に向けて、授業改善に努めてきた。
 - (成果) → 研究係と連携を図り、文類・理類・芸体類の3つのブロック毎に授業を公開したり、意識的に個人研究として各々が授業改善に向けた取り組みを行うことができた。個人研究の交流は2月に実施する予定である。
- ・基礎学力の定着に向けて、家庭学習の習慣化に努めてきた。
 - (成果) → 研究係と連携を図り、各種テスト2週間前の家庭学習に全校で組織的に取り組んだ結果、家庭の協力も得られ、一定の成果をあげることができた。
 - (成果) → 各教科において、基礎的な内容の反復(小テスト)や宿題の与え方を工夫することができた。特に、国語科では、1年間に学習する漢字を年度当初から知らせ、小テストを継続して行うことで、見通しを持ちながら学習を進めることができている。

○ 教育課程検証の方法

- ・時数集計表と週案により、週毎・月毎に授業時数の検証を行う。
- ・全国学力学習状況調査の結果を分析した。CRTは3月に実施予定。
- ・学校評価の項目の見直しを行い、教員・保護者・学校関係者で実施し、現在調査結果の集計中である。